令和５年９月２８日発行

立山町教育センターだより　号外　そふとめん13

立山町教育センター　〒930-0221　立山町前沢 3318　TEL: 463-4407　FAX: 463-6622　URL: http://www.tateyama-c.tym.ed.jp/

通常訪問研修を終えて⑦　　釜ヶ渕小学校

研修主題：一人一人のよさを捉え、育む授業

本校では今年度、「主体性の育成による学びの自立」を目指しています。丁寧なノート指導を基にした「書いて考える活動」や、友達の思いを聞き合う「くらしのたしかめ」の時間を大切にするなど、確かな児童理解を基にした授業の構想に取り組んでいます。通常訪問研修で明らかになったことや課題の一部を紹介します。

＜明らかになったこと＞

- なりたい自分を明確にもてると子供はやる気になる。そのためには児童の実態を捉えた学習を構想することが大切である。
- 事前の部会研修で、素材研究や単元の重要な柱となる箇所について、単元構想図をもとに共有できたことが本時にも生かされていた。また、事前に実際の子供の姿を想定して模擬授業を行ったことで、教師の出方について具体的に検討することができた。授業者が授業構想を描く上での大きな支援となった。
- ノートを中心とした問答と朱書きによる一人学習が充実していたので、学び合いの場では自分の言葉で意欲的に交流し、聞き合う場が成立していた。
- 子供たちが本音で語ったり、仲間に問いかけたりする場面や、授業後に今日の授業について振り返る姿から、日頃の授業の充実が感じられた。

＜残された課題＞

- 単元を貫く学習課題と本時の学習問題が、絶えず意識されていないと、学び合いの場面が空中戦になってしまう。子供に委ね、教師の出場を意識すると、子供たちに考える力が付いていく。
- 高学年でも算数科において操作活動は有効である。一方、分かっているようで分かっていない子供もいる。説明が一部の子供だけでなされていないか。操作の途中を追体験することや、学んだことを教え合うことが大切である。
- 一部の子供だけでなく、中心発問後は子供たちの意見を広く聞く。そのためには自分の立場を明らかにする場面が必要である。
- 聞いている子供の反応があまり見られない。教師が子供の発言に大きく反応しすぎる、関わりすぎることも関係しているのではないか。子供の主体的な学びを支える教師の構え（委ねる、待つ）に課題が見られる。

＜今後の対策＞

今後は、これまで積み重ねてきたノート指導による一人学習の充実を土台にし、対話的な状況を生み出す授業場面においての教師の役割について研修を進めていきます。多くの示唆を与えていただき、これまでの取組の成果と、今後の研修の方向性を確認する機会となりました。

文責　教務主任　宮前小百合